NOU
Nihon University College of Art
Art

一藝芸展

2023.5.2 TUE
→ 5.14 SUN

とみらいテラス
TOMIRAI TERRACE

NOU
Nihon University College of Art
Art

日藝文芸展

日藝文芸展では、
日本大学芸術学部文芸学科
の学生によって
制作されたゼミ雑誌、
及び優秀卒論・作品集を
展示しています。
そのほか、
文芸学科内に編集部を置く
芸術総合雑誌「江古田文学」も
本展にて展示します。

ゼミ雑誌ってなに?

日本大学芸術学部文芸学科では、年に一回、「文芸研究(ゼミ)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業のなかでゼミ雑誌を制作します。

内容は小説や評論、詩歌などゼミによって異なります。企画や執筆はもちろんのこと、編集作業や印刷会社とのやりとりも学生主体でおこなっているため、実際の本づくりについて学ぶことができます。

文芸学科では毎年、30~40種類のゼミ雑誌を発行しています。出来上がったゼミ雑誌はキャンパス内の文芸ラウンジ、学部図書館などに常設・配布しています。また、大学祭などのイベントの際には、学外の方にもご自由にお持ち帰りいただけます。

総合芸術文芸誌「江古田文学」について

『江古田文学』は、慶應大学の『三田文学』、早稲田大学の『早稲田文学』と並び称される、老舗の有力文芸雑誌です。1950年、日本が敗戦の傷から癒えつつある頃、『江古田文学』は創刊されました。多くの文芸誌が乱立しては、倒れてゆくなか、本誌は「日藝魂」を堅持し、伝統を紡いで参りました。本誌は、漱石・鷗外をはじめとする、歴史的な特集を組むとともに、ライトノベルやニコニコ動画など、サブカルチャーもテーマとしてきました。「歴史」を大切にするとともに、「現在」にも目を向けてきました。
いままでの歩みをとおして、本誌は、研究家や読者にとって「なければならない雑誌」「存在しないと文化的損失になる雑誌」という地位を、長い時間をかけて、確立して参りました。
本誌は、文芸学科教員を初めとする作家・詩人・批評家のみならず、他学科の教員・学生の協力のもとに、成り立ってきました。文芸学科の雑誌というより、日藝の雑誌という性格を大切に、本誌は育ってきました。
本誌は、美術学科生や写真学科生の卒業制作を、表紙に採用してきました。現在は、美術学科の福島唯史教授の絵画が表紙を飾っています。『江古田文学』は、文芸学科のみならず、「日藝」全体の表現の場でありつづけてきたと言えるでしょう。
『江古田文学』は、いままでの歩みの上に、さらなる一歩を刻もうとしています。
日藝の「窓」として、社会への存在証明として、在校生・卒業生・受験生へのアピールとして、存在しつづけてきた本誌は、さらに強く、その意義を主張しようとしています。
『江古田文学』を通して「日藝魂」に触れていただけましたら幸いです。

とみらいテラス
TOMIRAI TERRACE
富里市立図書館
〒286-0221　千葉県富里市七栄 653-1
TEL:0476-90-4646/FAX:0476-90-4645